

ハイビスカスの季節がやってきました



④ 青空に映える大輪の花！
夏のお庭を元気に彩ってくれます。

そろそろ夏の気配を感じる季節になってきました。「夏の花」といえば、何を思い浮かべますか？ヒマワリ・アサガオ・ユリなどありますが、やはり一番華やかで庭の主役級になれる花は「ハイビスカス」ではないでしょうか？

ハイビスカスという名前は、エジプトの美の女神「ヒビス」が語源とされています。濃とした花姿とカラフルな色合いはその名の通り美しく、ハワイでは愛されて尊敬されるという意味を持つ「アロアロ」という呼称があります。そんな南国の国々まで愛されるような、特別な夏の花です。

そんな夏の花・ハイビスカスですが、名古屋園芸での販売のピークは、実は6月なのです。徳島の生産者より、このあたりの市場には出荷することのない良品を特別に仕入れてあります。しっかりとした株につぼみがいっぱいついた状態の鉢を見ると、一足先に夏が来たかのようなとてもワクワクした気分になりますよ。そのワクワク感を楽しんでいただくためにも、ぜひ6月中旬にハイビスカスに会いに行ってください。

魅力いっぱいのお花ですが、実は近年の名古屋の暑さには少々夏バテをしてしまいます。・・・実は一番暑い8月には花がお休みをし、35度を超えると花数が少なくなってしまうんです。しかし、秋の後半9月〜10月になるとまた元気に花を咲かせ、場所によっては11月まで繰り返し花を咲かせ続けます。6月にお迎えして、11月までと、かなり長い期間楽しむことができます。

さてハイビスカスをお迎えしたら、まずは「鉢増し」をしましょう。いまの二回りくらい大きいサイズの鉢に、そーっと植え替えをします。その方が夏の水管理も楽になるでしょう。そしてつぎつぎと頑張った花を咲かせるハイビスカスは肥料が大好き！肥料切れをおこさないように、定期的に追肥をしましょう。また日々終わった花を摘んで株をきれいにしておくのも大事なお手入れです。

今年はずいぶんお気に入りのハイビスカスと、南国ムード溢れる夏をおうちで楽しみましょう。

⑤ 生産者の技術が光るスタンダード仕立。季節の花々との寄せ植えも素敵です。



夏のギフトにアンズリウムがおすすめ ～父の日ギフトにも！～



① アンズリウムミリオンフラーレッド
とても花付の良い小輪タイプのアンズリウム
大株になるほどたくさんの花を咲かせてくれます。



② 可愛らしく品のある白色のアンズリウム、
夏のギフトにオススメです。



③ 赤のアンズリウムといっても、朱色やまっかな赤色の品種など、赤だけでもいろいろな色があります。



④ 落ち着いた雰囲気のあるアンズリウム可愛らしい色だけでなくカッコいい色も人気があります。



⑤ 花の形や色が実にさまざま、よく見ると同じ色に見えても少しずつ色が違ったり、花や葉に光沢のあるものもあります。

観葉植物として良く見かけるアンズリウムには、とてもたくさんの種類があることをご存知ですか？葉芸種だけでもすべて集めると約百種類になるほど多様で、好きな色や形を選ぶことができ、とても楽しい植物なのです。鮮やかな発色で南国の様な雰囲気がありますね。艶のある質感で高級感もあり、インテリアやお祝いの贈り物としてもとても人気がある植物です。

色の種類もとても豊富で、定番の赤、可愛らしいピンクや白、他にもシックで落ち着いた雰囲気のある紫や黒色など、たくさんの種類があります。

最近では多花性の品種、独特な葉の形や模様を楽しめるアンズリウムを見かけることも多くなりました。

アンズリウムはアメリカ大陸中南部の熱帯地域が原産地の観葉植物です。サトイモ科アンズリウム属に分類され、およそ600種類以上が存在すると言われています。

熱帯地域が原産のため、高温多湿の環境を好みます。暖かく過ごしやすい春～夏の時期は土の表面が乾いたらたっぷりと水やりをします。秋～冬の寒い時期は、ほとんど成長がすすまないため、水やりの頻度は少なくなります。土がしっかりと乾いてから水やりをするようにしましょう。露吹きでアンズリウム全体に水をかけると艶のある葉を保ちやすくなります。また、害虫の予防としても効果があるので、時々かけてあげると良いです。

アンズリウムは日当たりの良い場所を好みますが、直射日光に当たると葉焼けして葉が変色してしまうことがあるので注意が必要です。レースのカーテン越しのやわらかい日差しが当たる場所で育てると元気に育ちます。アンズリウムの生育には最低10℃の気温が必要になるため冬場は暖かい室内で管理します。

たくさんの種類の中から、自分のお気に入りの花色や形をみつけてコレクションしたり、大切な方にプレゼントしてみたいかどうでしょうか？「おうち時間」に彩を加えてくれます。観葉植物の中でも比較的簡単に育てることができるのでいろいろな種類を育ててお楽しみください。

日陰を楽しもう ～シェードガーデンの魅力～



日陰だと植物が育ちにくい、花が付かないといったイメージが強いように感じますが、そんなことはありません。さすがに冬から春に向けては日陰を楽しむ花は少ないですが、しかし今から夏に向けてはたくさんの種類が出てきます。

夏のシェードガーデンには欠かせない存在、ペゴニア、トレニア、インパチエンス、日陰で育つ代表の花といっても過言ではないでしょう。日陰で育ちながらも丈夫で可愛らしい花をたくさん咲かせ、大株になり見事なパフォーマンスをみせてくれます。ペゴニア一つとっても花が一重のものから八重咲のもの、葉がグリーンのものから銅葉（茶色の葉っぱ）までと種類がとっても豊富になってきました。



① ホスタ、ニシキギ、ヘデラのカラーリーフの寄せ植え。リーフだけでも色のコントラストで面白い鉢が出来上がります。

カラーリーフは日陰の方が育つのに適している品種が多いので、カラーリーフだけでも素敵な寄せ植えが出来ます。

暗い日陰も明るく綺麗に見せてくれる植物たち。暑い時こそ日陰で涼みたい！そんな時に日陰に彩りを与えてくれること間違いなしです。日陰だからと諦めるのはもったいない。日陰だからこそできるシェードガーデンを楽しみましょう！

数多くの品種が出てくるのでガーデンスタッフなんでもご相談ください。



② コロンとして、可愛らしい八重咲きペゴニア（パンダブル）のハンギングバスケット